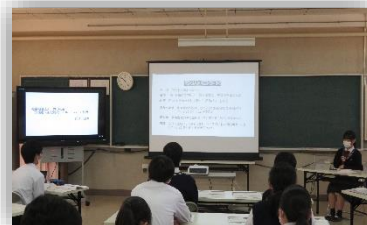


「三年生の学びから学ぶ」(文責:宇都)

私たちは10月17日に行われた三年生の「介護実習及び介護過程報告会」に参加させていただきました。一・二年生では実習Ⅰ、三年生は実習Ⅱに取り組みます。実習Ⅰと実習Ⅱの大きな違いは1人の利用者様を担当し、介護過程を展開することです。介護過程とはアセスメント(情報収集)をして、利用者様の生活上の課題を見つけ、課題を解決するための目標を立て、目標を達成するための支援内容を考え、支援を実際に行い、評価するということを繰り返し、利用者様のQOL(生活の質)を高めていくプロセスです。

25日間の実習で介護過程を評価まで展開させるためには、時間配分と観察やコミュニケーションでどれだけ多くの情報を引き出せるかが必要になると思いました。また、レクリエーションを三年生が企画して行っていました。レクリエーションは利用者様に楽しんでもらうだけでなく心身の機能の維持、向上の目的もあります。行うときは利用者様の体力や、全員が楽しめように配慮することが大切だと思いました。今回の報告会で学んだことを活かして来年の実習に臨んでいきたいです。



「最後まで仕事をやりきる大切さ」(文責:阿久根)

私たちは10月8日～10日の日程で国体のボランティアに参加しました。6月には大学生のプレ大会(2日間)にも参加しました。私たちのクラスはスポーツクライミング競技のボランティアとして参加しました。スポーツクライミングはリード競技とボルダリング競技の2種類が行われました。私たちはIDチェック係を任せられ、競技役員や関係者以外の方が競技エリアに入らないようにする仕事を行いました。最初はあまり任せられていた仕事にしっかりと行うことができませんでした。徐々に慣れてきてしっかりと仕事を行うことができました。会場には皇室の方も参観にいらしており、国体への関心の高いことを感じました。

最初はボランティアにはあまり積極的に参加したいと思っていませんでしたが、仕事を行うことで最後までやりきる大切さを学ぶことができました。同時に、自分が地域の方と協力し、関係を築くことの大切さについても感じるようになりました。今回の経験を活かして様々なボランティアにも参加していきたいです。



【編集後記】

鹿児島県にとって、2023年はイベントの多い年だったように思います。7月の総文祭、10月の国民体育大会がありました。日本中から多くの方が鹿児島県にお越しになりました。国体のテーマは「熱い鼓動 風は南から」でした。本校の位置する南薩地区も少子高齢化が進行し、地域の課題も少なくない状況ですが、高校生をはじめとする若い世代が日本全国の皆様を「おもてなし」した経験はとても意味のある時間だったと感じています。熱い鼓動、その拍動を生み出し、地域力の向上や福祉・介護分野の発展に貢献できる力を伸ばしていくことができるような福祉教育を更に拡げていかなければならないと感じています。

十一月初旬には2学年の介護実習報告会の開催を予定しています。自分の思いを他者に伝える体験を積み重ねてほしいと思っています。ご参加お待ちしております。

(学級担任 岩川亮太)